

1. ディーゼルトラック・バス等の挑戦目標値について

- 中央環境審議会「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第八次答申）」（平成17年4月）において、ディーゼルトラック・バス等のNOx規制値について、平成21年10月から順次適用されるポスト新長期規制の1/3程度とする「挑戦目標値」につき、必要に応じて目標値及び達成時期を定める、という記述がなされていることを受け、検討を実施しているもの。
- 今回は、排出ガスの測定方法等を中心に議論する予定。

【日米欧の排出ガス規制の比較】

規制値の単位は「g/kWh」

	排出ガス規制								燃費規制
	現 在				将 来				
	適用開始年等	測定方法	NOx	PM	適用開始年等	測定方法	NOx	PM	
日本	ポスト新長期規制 (2009年～)	JE05	0.7	0.01	挑戦目標値	国連モードで 検討中	検討 中	0.01	有り (2015年度を目標年度)
米国	2010年本格実施	米国モード	0.27	0.01	2010年本格実施	米国モード	0.27	0.01	無し
欧州	ユーロV (2008年～)	欧州モード	2.0	0.03	ユーロVI (2013年～)	欧州モード (今後、国連 モードへ移行 予定)	0.4	0.01	無し

2. E10対応自動車を巡る国内の状況

- ・ 現行のガソリン自動車に使用できるエタノール混合燃料は、中央環境審議会「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第7次答申）」（平成15年7月）等を受けて、E3（エタノール3%混合）までとなっている。E10燃料については、自動車燃料配管の腐食等の安全上の影響や排出ガス等の環境上の影響が確認されておらず、E10対応自動車の安全上、環境上の基準がまだ定められていない状況にある。このため、E10対応自動車については、現在、試験自動車として国土交通大臣の認定を受け、環境省の高濃度バイオ燃料実証事業において公道走行試験を実施しているところである。
- ・ 試験自動車は以下のとおり。

【日産】

- ・ ムラーノ 1台
（財）十勝振興機構が規格外の小麦やんさいを原料として製造したバイオエタノールをガソリンに10%混合することによりE10燃料を製造し、これを使用して北海道十勝地方において走行試験を行っている。

【トヨタ】

- ・ カローラフィールダー 7台
- ・ カローラアクシオ 1台
- ・ エスティマハイブリッド 25台
バイオエタノール・ジャパン関西（株）が建設廃木材や木くず等の廃棄物を活用し、食料と競合しない木質系のバイオエタノールを製造し、これをガソリンに10%混合することにより製造されたE10燃料を使用し、大阪府で走行試験を行っている。

【環境省高濃度バイオ燃料実証事業】

高濃度バイオ燃料実証事業費 - 早期の実証によるE10等の高濃度燃料導入環境の整備 -

○バイオ燃料の高濃度化により、さらに大幅なCO2削減効果が生じる。
○諸外国においては、エタノールについては、E5以上の高濃度利用が進んでいる（例：米国、ブラジルなど）また、BDFについても同様に高濃度利用の取組が進められている。

